

補綴物除去

1 使用器具

- ・カーバイドバー (図 8-35)
- ・ダイヤモンドポイント
- ・除去用鉗子 (スプリットングプライヤー, 図 8-36A, B)
- ・リムービングドライバー (図 8-37A, B), マイナスドライバー

2 除去方法

- ① 冠の頬側面から咬合面そして舌側面にかけて、カーバイドバーにて溝を入れる (図 8-38A).
- ② 鉗子先端部を溝に挿入して鉗子把持部を握り、冠を除去する。または、マイナスドライバーを溝にあてがい、軽くひねって冠を除去する (図 8-38B).



A: 上顎右側第二小臼歯にカーバイドバーにて溝を入れた状態 (ミラー像)



B: マイナスドライバーを溝にあてがっている

図 8-38 金属冠除去方法



金属冠の除去に使用する

図 8-35 カーバイドバー



A: カーバイドバーにて金属冠に溝を入れたあと、先端部を溝に挿入して用いる



B: 先端部

図 8-36 スプリットングプライヤー



A: カーバイドバーにて金属冠に溝を入れたあと、先端部を溝にあてがい軽くひねって用いる



B: 先端部

図 8-37 リムービングドライバー

支台築造体の除去

1 使用器具

- ・超音波発振装置 (図 8-27B)
- ・合釘除去器具
リトルジャイアント (図 8-39)
ポストコアリムーバー (図 8-40A, B)
兼松式合釘抜去鉗子 (図 8-41)
- ・バー

◆ 注意 ◆

バーで支台築造体を切削して除去する場合、穿孔の危険性があるため、細心の注意が必要である。

2 除去方法

- ① 支台築造体の周囲をバーにて切削する。
- ② 歯質と支台築造体とのセメントラインが出るまで切削する。
- ③ 超音波発振装置を利用し、除去を試みる (図 8-42)。または、合釘除去器具を用いて慎重に除去する。

支台築造体 (ポストコア) に対して、
相対する方向から超音波振動を加える

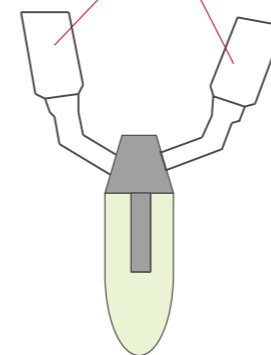


図 8-42 支台築造体除去方法

隔壁形成

冠および支台築造体の除去後、軟化象牙質を認める場合や、残存する健康歯質が薄い場合は、ラバーダム防湿が困難となることが多い。そこで、ラバーダム防湿を行うために、軟化象牙質の除去後、光重合型コンポジットレジンを用いて隔壁を形成する。このとき、レジン成分が根管口に入り込まないように、事前に根管口の位置確認が必要である。● 第2章 無菌的処置



図 8-39 リトルジャイアント



A



B: 先端部

図 8-40 ポストコアリムーバー

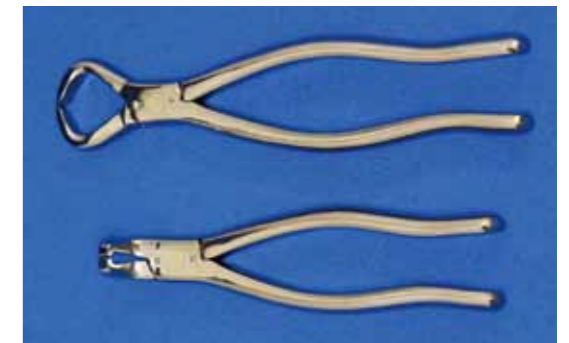


図 8-41 兼松式合釘抜去鉗子